

風土記の丘の花だより¹³⁶

今、そしてこれから見られる植物(2022年5月28日)

残り少なくなったハルジオンにかわって、ヒメジョオンが咲き始めました。季節は夏へと向かっています。オカトラノオやアジサイの花も咲き始め、ノアザミもきれいです。これからは紹介する花に事欠くことがなさそうです。



ヤブムラサキの木に、小さいながらも存在感のある紫色の花が咲いています。ムラサキシキブによく似ていますが、全体に毛深く、葉を触るだけでも感触で分かりますし、花の周りにも毛が多いので、一目でわかります。でもまだムラサキシキブのつぼみは小さくて、開花にはもう少しかかりそうです。古い図鑑ではクマツヅラ科になっていますが、今はシソ科となっています。



黄色っぽい小さな花が固まって咲いています。さて何の花でしょう。これはハゼノキの花です。体質によってはかぶれる方もおられますね。特にこれからの季節は、よくかぶれると聞きます。ハゼノキはかつて、ろうそくの蠟を採るために栽培されましたが、いまでは需要も減っていることでしょう。野山に普通に生える木で、秋の紅葉はとてもきれいです。



旧谷山家や小早川家の庭などで、ハコネウツギの花が咲いています。白い花ですが、すぐに赤くなるので、紅白の花が咲いているようです。木の名前に「ウツギ」と付くものはいくつかありますが、ウツギは「空木」と書き、茎が中空になっている木のことで「ウツギの仲間」というのはありません。この木はスイカズラ科、ウツギ（うのはな）はアジサイ科、もう花は終わりましたが、ミツバウツギはミツバウツギ科です。ややこしいですね。ネズミモチの純白の花も咲き始めました。おなじみのキンモクセイと同じモクセイ科の木です。それでかどうかは知りませんが、この花もいい香りがします。実がネズミの糞に似ていることから名づけられたと聞きます。と言われても、今のご時世、家の中でネズミの糞を見ることも少なくなりました。花だけ愛でましょう。 松下

